2006 年度

| 科目名 | 対象学科・学年 | 担当者 |
|---|---|---|
| 英語の規則Ⅱ | 文学部教福２回生<br>教育教福２回生 | 溝口　健司 |

授業テーマ

実践的な文法力・語法力・語彙力の強化を図る。

授業の概要と目標

現代英語の理解・運用に必要になる実践的な文法・語法事項をできるだけ応用範囲の広い知識として習得するとともに、文法・語法事項の説明能力を養う。あわせて、語の構造や規則性に注意を向けることによって語彙力を効率よく増強する。

評価方法

不定期試験および質疑応答などにおける発言の質・量によって評価する。

| テキスト | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|
| *Practical English Usage*　(第３版) | Michael Swan | Oxford University Press |

| 参考書 | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|
| 『オックスフォード実例現代英語用法辞典』 | M. スワン | 研究社 |
| 『実例英文法』第４版 | A.J. トムソン ・ A.V. マーティネット | オックスフォード大学出版局 |
| 『現代英文法講義』 | 安藤貞雄 | 開拓社 |

授業スケジュール・内容

文法・語法の知識を確実に運用できるようにするだけでなく、文法･語法事項を生徒に明快に説明できる能力を養うために、毎回の授業で数名の応答担当者が重要事項をフロアに説明する形式（質疑応答）を採用する。応答担当者は、教科書の指定範囲に関しフロアから事前提出された質問に対する説明を、参考書などの文献を活用して周到に準備したうえで、授業で発表することとする。

また並行して、英単語の大多数が複数の意味要素から構成されていることに着目した語彙増強プログラムを展開する。１年間で大学生･社会人に必要な語彙レベルをはるかに超える語彙を習得することが可能になると思われる。これについては年間 10 回程度の不定期チェックをおこなう。

【授業における役割分担】

フロア　１．応答発表の前週に質問を紙面で提出する。
　　２．質疑応答当日に関連する質問・意見を口頭で提出できる。

応答担当者　１．フロアから事前提出された質問に対して一般性の高い説明を提示する。
　　２．応答当日の関連質問に答える。

【スケジュール】

１．オリエンテーション
２．質疑応答デモンストレーション　質問提出①
３．質疑応答①　　質問提出②
４．質疑応答②　　質問提出③
５．質疑応答③　　質問提出④
６．不定期テスト　語彙チェック
⋮　　⋮
２８．質疑応答㉔　　質問提出㉕
２９．質疑応答㉕
３０．不定期テスト　語彙チェック

❒推薦辞書　小西友七・南出康世（編）　『ジーニアス英和辞典』第３版　（大修館書店）
M. Agnes (編)　*Webster's New World College Dictionary*　第４版　( Webster's New World)
D. Summers(編)　*Longman Dictionary of Contemporary English*　第４版　(Pearson Education)